



全社員を対象とした研修等に林業の課題や循環型社会・カーボンニュートラル等への理解を醸成するプログラムを導入。
地球温暖化防止に積極的に貢献していくため、森林保全や木材の有効活用等での協業に関する包括連携協定を令和4年11月に締結。
林業についての学びや村内企業・村民との対話を目的に、全社員を対象とした研修等を同地域で実施。

導入の経緯と決め手

事業用の木製パレットの木材について、県内で安定調達できる質の良い木材を探していた際に、西粟倉村の間伐材に出会い、令和3年5月に取引を開始。
こうしたつながりを背景に、地球温暖化防止に積極的に貢献していくため、森林保全や木材の有効活用等での協業に関する協定を西粟倉村等と令和4年11月に締結。
協定に基づき、林業についての学びや村内企業・村民との対話を目的とした研修を導入。

取組内容とその効果

<実施地域：森林サービス産業推進地域「岡山県西粟倉村地域」>

- ①森林研修（環境教育活動、林業支援活動）：チェーンソー体験や施業現場見学、村役場産業観光課とのディスカッション、木工工房など村内企業の見学を通じ、林業の課題や村での林業活性化の取組、循環型社会・カーボンニュートラル等への理解を醸成。
- ②新規事業開発研修：協定に基づいて立ち上げられた新規事業開発のプロジェクトチームメンバーが、村内企業の見学やヒアリング、村長とのディスカッション等を通じて、異業種連携の検討を実施。

アンケート調査では、「西粟倉村内での取組の例を説明できる」「環境保護のために森林が果たしている役割について説明できる」等の全項目について研修前後で理解度向上。プライベートでも村の祭りに参加するなど、地域や村民とのつながりが生まれている。



従業員の声

- ・ 村のどの会社も共通して“資源を最後まで無駄にしない、自分たちで循環させる”という思いを持って取り組んでいることが印象的だった。
- ・ 村の取組を聞いて、「何もしない」は衰退するだけで、失敗しても「チャレンジすること」が大切なことは、どの業種にも当てはまると改めて感じた。

役割分担と参加促進に向けた取組

研修・協定担当である管理総務部が、受入地域側の窓口である（株）百森に相談し、受入地域側がオーダーメイドでプログラムを作成している。
①の研修は、1回あたり7名程度の少人数で、部署や年代も分散させて実施することで、研修中に業務が停滞しないように工夫している。

■プログラム構築：

受入地域が、企業の要望を踏まえて、オーダーメイドでプログラムを作成

■導入形態：

参加必須の研修

①1泊2日

②2泊3日

■対象者：

①全社員（3年間で全社員に実施予定）

②新規事業開発のプロジェクトメンバー

■費用負担：

企業が全額負担

目的

- 経営・プロジェクトに新たな視点をもたらす
- 自社事業・企業理念に対する理解向上
- 環境教育
- 地域との関係づくり

結果（企業の声）

- 社員の林業や木材利用の意義等への理解、地域自体への関心の向上に寄与している。
- 地域や企業との交流により、異業種連携の検討などにつながっている。